



東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所
<http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

2019年のハマトビウオ漁



ハマトビウオ漁について

八丈島において、ハマトビウオは「春トビ」という通称名で親しまれ、町のシンボルにもなっています。2019年のハマトビウオ漁は2月18日に始まり、5月14日の水揚げを最後に約3ヶ月におよんだ漁が終わりました。

ハマトビウオはイワシと同様、資源量の変動が激しい魚種として知られています。八丈島でも1990年代に漁獲がほとんど皆無となった時期がありました。こうした背景もあり、東京都では2000年から都TAC制度を導入し、漁獲量に上限を設定して乱獲に陥らないよう資源管理を実施しています。

表1 八丈島におけるハマトビウオ流し刺網漁における漁獲尾数と、漁獲尾数上位3隻の延べ出漁隻数およびCPUEの推移

漁期	漁獲尾数 (尾)	延べ出漁隻数 (隻)	CPUE (尾/隻・日)
2009年	738,173	149	4,954
2010年	757,543	129	5,872
2011年	815,117	125	6,521
2012年	572,056	141	4,057
2013年	688,597	135	5,101
2014年	669,435	113	5,924
2015年	342,975	129	2,659
2016年	491,501	101	4,866
2017年	219,833	106	2,074
2018年	358,589	74	4,846
10年平均	565,382	120	4,687
2019年	269,583	109	2,473

2019年の漁模様

2009年以降の八丈島におけるハマトビウオの漁獲尾数・漁獲尾数上位3隻の延べ出漁隻数・CPUE（1隻1日当たりの漁獲尾数）を表1に示しました。2019年の漁獲尾数は約27万尾で、2009年以降2017年に次いで2番目に少なく、過去10年平均の48%の値でした。延べ出漁隻数は過去10年並の109隻でしたが、CPUEは2,473尾/隻・日となり、過去10年の中で2017年に次いで2番目に少ない値となりました。

2019年と過去10年の漁獲尾数の推移を図1に示しました。ハマトビウオは高い水温を好み、黒潮に乗って産卵のために回遊します。2019年の漁期中は、黒潮の影響を受けて水温が高めで推移しており、ハマトビウオ漁にとって良い海況が続いていました。しかし、ハマトビウオが獲れ始めるのは遅く、3月上旬までの漁獲尾数は約6,000尾と低い水準でした。その後4月上旬から下旬にかけて盛漁期を迎えたものの、漁獲尾数は約27万尾と伸び悩みました。2019年の漁獲尾数が少なかった要因として、魚群の来遊が例年よりも短く、また来遊した魚群が低密度であったことが考えられます。

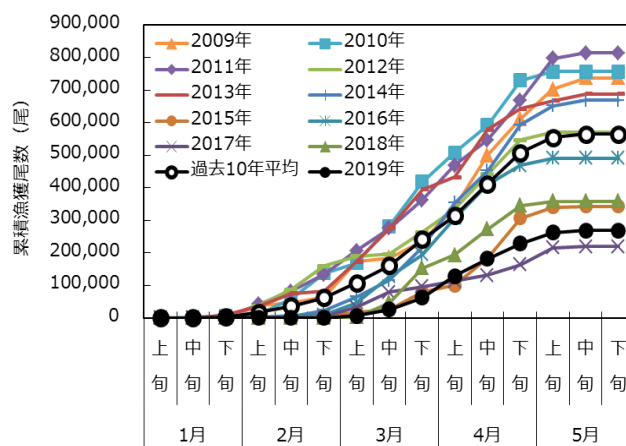


図1 2019年と過去10年のハマトビウオ漁獲尾数の推移